

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2017年9月

主な出来事

- 2-4日、第1回となるコンゴ(民)/中ア/南スーダンによる3か国閣僚級会議がキンシャサで開催された。
- 5日、ナンガー独立国家選挙委員会(CENI)委員長は、投票に機器を利用する「半電子投票方式」による投票を提案した。これを用いることで、1億ドル規模の選挙費用が節約される。
- 7日、カビラ大統領はサス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領の招待を受け、ブラザビルを訪問した。両国の友好、同胞、協力関係の強化が目的。
- 15日、政府は、現在利用されている「半生体認証式(semi-biometriques)」旅券は、今年10月16日以降は全国で無効になる旨のコミュニケを発出した。これに関し当地 EU 代表部は29日、「半生体認証式」旅券への査証発給を中断する旨のローカルステートメントを出した。
- 15日、南キブ州カマニョラで、ブルンジ難民とコンゴ(民)当局の間で衝突が発生し、ブルンジ人難民36名とコンゴ(民)国軍兵士1名が死亡した。
- 19-21日、グラン・カサイ地域の治安回復について協議する「平和フォーラム」が中央カサイ州カナンガ市で開催され、カビラ大統領は開会式で、法の裁きなしには真の平和と和解はありえないと述べた。20日には、カムウィナ・ンサブ(伝統的首長の名称)家の報道官が、「我々の兄弟である故ジャン＝ピエール・ムパンディ(前カムウィナ・ンサブ)の不正行為によって起こったすべての残虐行為を、国家とカサイ地域の兄弟たちに謝罪する」と述べた。
- 21日、カビラ大統領は国連総会に出席し、23日にはスピーチを行った。
- 26日、カビラ大統領はロウレンソ・アンゴラ新大統領の就任式に出席するため、ルアンダを訪れた(シェ・オキトゥンドウ外相同行)。
- 27日、南キブ州ウヴィラ(Uvira、同州第2の都市)で、マイマイ・ヤクトウンバとコンゴ(民)国軍の交戦が発生した。

1. 内政

(1)ガソリンの供給不足問題

・4日、石油小売業者と政府(国家経済省、財務省、石油省)は、ガソリンスタンドにおけるガソリン供給不足問題の解決策を探るため、協議を行った。同日、キンシャサ市の中心部ゴンベ地区では、Total社とEgen社のほとんどのガソリンスタンドが閉鎖された。一部、営業を行っているガソリンスタンドでも、長蛇の列ができた。ガソリンスタンドの従業員によると、8月31日からガソリンの供給が行われていない。

(2)カビラ大統領が「公的機関間会議」を主催

・9日、カビラ大統領は、政府代表、上院及び国民議会議長、独立国家選挙委員会(CENI)委員長及び副委員長、合意フォローアップ国家評議会(CNSA)議長及び副議長等が参加する「公的機関間会議」を開催した。同会議の議長を務めたラマザニ・シャダリ内務・治安相によると、CENIは、カサイ州、中央カサイ州、ロマミ州の一部(Luilu地区、Kamiji地区)の選挙人登録を12日にも開始すると発表した。また、ナンガーCENI委員長が選挙費用削減のために提案した投票機器の採用について、カビラ大統領も、同提案を支持するよう求めた。(12日、カサイ州チカパ市で、選挙人登録作業が開始された。)

(3) 通常国会の開幕

・15日、通常国会が開幕し、午前には上院、午後には国民議会で開会式が催された。開会式のスピーチでは、選挙日程に関し、ケンゴ上院議長は、「すべての人々に受け入れられる選挙日程を发表しよう」独立国家選挙委員会(CENI)に求めたのに対し、ミナク国民議会議長は、「選挙は、軽率に急がず、また、過度に遅れない、良識のある日程を早急に提案しよう」述べた。

(4) 旧式旅券の期限切れ通告

・15日、コンゴ(民)政府は、現在利用されている「半生体認証式(semi-biometriques)」旅券は、今年10月16日以降は全国で無効になるとのコミュニケを発表した。現在も利用されている旧式の「半生体認証式」旅券は、今年10月16日以降、国内全土で無効になり、同旅券所持者は、出入国が許可されなくなる。外国からコンゴ(民)に戻る国民は国境で、無効になった旅券と引き替えに、新しい「生体認証式(biometrique)」旅券の申請書類を受け取ることになる。
・29日、当地 EU 代表部はコンゴ(民)の決定に関し、2015年末以降も、「半生体認証式」旅券はシェンゲン域内で有効であるものの、「半生体認証式」旅券への査証発給を中断する旨のローカルステートメントを発表した。

(5) 野党の動向

ア 野党プラットフォーム「Rassemblement(ラッサンブルマン)」の呼びかけによる野党集会

・野党プラットフォーム「Rassemblement」が3日の開催を呼びかけた政治集会に関し、8月31日、キンシャサ市は同集会の開催を禁止し、結果的に、集会は行われなかった。
・1日、「Rassemblement」は新たなコミュニケで、3日午前11時に、キンシャサのンジリ国際空港に帰国するフェリックス・チセケディ「Rassemblement」総裁を熱烈に迎えるよう呼びかけた。(当日、空港周辺には治安当局が配置され、「フェ」議長を迎えたのは数人の関係者のみであった。)

イ フェリックス・チセケディ「Rassemblement(ラッサンブルマン)」総裁が野党に団結を呼びかけ

・5日、フェリックス・チセケディ「Rassemblement」総裁は記者会見で、カビラ大統領の今年末の退陣に向け、反カビラ勢力として野党が団結し、一切の交渉は行わないよう呼びかけた。

(6) 独立国家選挙委員会(CENI)の動向

ア CENI が「半電子投票方式」を提案

・5日、ナンガーCENI 委員長は、投票に機器を利用する「半電子投票方式」による投票を提案した。同委員長によると、「半電子投票方式」では投票用紙のサイズ(注:例えばキンシャサ市の国民議会議員選挙における投票用紙は50ページにも及ぶ)の軽減や投票所数の削減ができ、1億ドル規模の選挙費用が節約される。また、開票結果が当日夜には判明し、選挙にかかる時間の短縮が可能となる。野党MLC等は、半電子投票は、選挙違反を容易にするとして反対している(5日付RFI)。

イ ナンガーCENI 委員長の訪米

・11日、ナンガーCENI 委員長は、選挙プロセスに関する意見交換のため、ワシントン D.C.を訪れた(13日付ACP)。

2. 外交

(1) 第1回コンゴ(民)/中ア/南スーダンの3か国閣僚級協議の開催

・2-4日、キンシャサで、第1回となるコンゴ(民)/中ア/南スーダンによる3か国閣僚級会議が開催された。主な議題は地域の政治・治安状況で、各国から外相、内相、防衛相が参加した。

(2)カビラ大統領がブラザビルを公式訪問

・7日、カビラ大統領はサス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領の招待を受け、ブラザビルを公式訪問した。訪問の主な目的は、両国の友好、同胞、協力関係の強化で、両大統領は、2国間と地域関係について意見交換を行った。

(3)カビラ大統領の国連総会出席

・21日、カビラ大統領は国連総会に出席するためニューヨークに到着した。
・22日、カビラ大統領はミシェル・ベルギー首相、コンデ・ギニア大統領(AU 議長)、ゼイド・ラアド・アル・フセイン国連人権高等弁務官、ベンスーダ国際刑事裁判所(ICC) 検察官と個別に会談した。
・23日、カビラ大統領は、国連総会でスピーチを行った。また同日、グテーレス国連事務総長と会談した。
・24日、カビラ大統領はモハメド国連副事務総長と会談した。
・25日、コーエン元米国務次官補(Herman J. Cohen)は自身のツイッター上に、「21日、カビラ大統領のリクエストにより面会した。カビラ大統領は大統領選挙への不出馬を明言するのを拒否した。大きな失望」とのメッセージを掲載した。

(4)カビラ大統領がロウレンソ・アンゴラ大統領就任式出席のためルアンダを訪問。ズマ南ア大統領とも会談

・26日、カビラ大統領はロウレンソ・アンゴラ新大統領の就任式に出席するため、ルアンダを訪れた(シェ・オキトウンドウ外相同行)。
・同日、カビラ大統領は、ロウレンソ・アンゴラ新大統領の就任式に際し、ズマ南ア大統領とも会談した。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1)南キブ州カマニョラでブルンジ難民36名が死亡

・15日、南キブ州カマニョラで、ブルンジ難民とコンゴ(民)当局の間で衝突が発生し、ブルンジ人難民36名が死亡した(コンゴ(民)国軍(FARDC)の兵士1名も死亡)。これに対し国連(MONUSCO 及び UNHCR)はコンゴ(民)当局に対し、迅速な調査を要求した。メンデ・コンゴ(民)政府報道官は、「国連が難民だと主張するブルンジ人被害者の一部は、武装勢力のメンバーであり、コンゴ(民)はすでに調査を開始した」と述べた。

(2)北キブ州ベニ地区でタンザニア人国連 PKO 兵士が死亡

・18日、MONUSCO は、国連 PKO ミッションのタンザニア人兵士1名が、17日に北キブ州ベニ地区で発生した FARDC とマイマイ(自警団的な性格をもった武装集団)の衝突で死亡し、もう一人のタンザニア人兵士も負傷したとコミニケで発表した。ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)と思われる武装勢力が、MONUSCO 基地から500メートルの距離にある FARDC 基地を攻撃し、MONUSCO が反撃した際に発生したものの。

(3)北キブ州ルベロ地区で戦闘を逃れた市民17名の水死体発見

・19日、北キブ州エドアール湖で、戦闘を逃れたと思われる市民17名の水死体が発見された。ボケレ・ルベロ地区長は、これら死体は、マイマイと FARDC の紛争を逃れた人々が溺死したものと語った。目撃者によると、転覆した小舟には、28~30名(大多数が女性と子ども)が乗っていた。

(4)北キブ州ウヴィラでマイマイ・ヤクトウンバと FARDC が交戦

・27日、南キブ州ウヴィラ(Uvira、同州第2の都市)で、マイマイ・ヤクトウンバと FARDC が交戦し

た。夜になっても緊張は続き、28日朝には交戦が再開された。

4. その他地域情勢

(1)中央カサイ州カナンガ市で「平和フォーラム」開催

・19-21日、グラン・カサイ地域の治安回復について協議する「平和フォーラム」が中央カサイ州カナンガ市で開催され、前日18日にはカビラ大統領、チバラ首相がカナンガ入りした。

・19日の開会式でカビラ大統領は、法の裁きなしには真の平和と和解はありえないと述べた。

・20日、同フォーラムにおいて、カムウィナ・ンサブ(伝統的首長の名称)家のントロ報道官は、「我々の兄弟である故ジャン=ピエール・ムパンディ(前カムウィナ・ンサブ)の不正行為によって起こったすべての残虐行為を、国家とカサイ地域の兄弟たちに謝罪する」と述べ、当局に対し「危機の原因解明に取り組むよう」求めた。

・21日、チバラ首相参加の下、同フォーラムの閉会式が行われ、グラン・カサイの伝統的首長は、紛争解決を武力に頼ることを避けるための宣誓書に署名した。

5. その他

(1)ドレナン国連安全保安局(DSS)局長のコンゴ(民)訪問

・6日、ドレナン(Drennan)国連安全保安局(DSS)局長がコンゴ(民)を訪れ、シェ・オキトウンドウ外相及びラマザニ・シャダリ内相と会談した。同局長は、ゴマ市とカナンガ市も訪問した。

(2)鉱物資源の偽造輸出証明書に関する MONUSCO のコミュニケ

・7日、MONUSCO が発行したとされる鉱物資源の輸出証明書につき、同ミッションは関与していない旨のコミュニケを発出した。MONUSCO によると、同ミッションは鉱物資源の輸出/輸入にかかる一切の証明プロセスを行っておらず、また、発見された証明書は密売者が偽造したものであり、同証明書に記載されていた人物は MONUSCO で勤務しておらず、公印も MONUSCO が使用するものではない。

(3)コンゴ(民)の人権状況

・13日、国連人権合同事務所(UNJHRO)は記者会見で8月の人権状況に関するブリーフィングを行った。8月に UNJHRO が扱った人権侵害は441件で、7月の398件から10%強増加した。選挙関連の民主化運動やジャーナリストに対する侵害が多く、コンゴ(民)国軍(FARDC)や国家警察(PNC)による被害が増加している。

(4)コンゴ(民)国軍チャーター機の墜落

・30日午前7時頃、コンゴ(民)国軍(FARDC)がチャーターしたアントノフ12型機が、ンジリ・キンシャサ国際空港を離陸した数分後に墜落した。墜落した航空機には11名(うち6名は外国人。また一部には、搭乗者は十数名という報道あり)が搭乗しており、生存者はいない模様。FARDC 関係者によると、同機は南キブ州ブカブに向けて、弾薬、爆弾等を輸送していた。墜落したのは同空港から数キロ地点にあるンセレ(N'sele)地区の無人地帯で、住民らの被害は報告されていない。